

今回の演習では、引き続き LaTeX の利用方法を修得する。難しくて面倒くさいと感じるだろうが、将来論文を書くようになると、強力な武器となる。是非とも使い方を知っておこう。すべてのコマンドを覚える必要はない。LaTeX でできることを知っておけば、必要なときにテキストを見て綺麗な書類を作成することができる。

まずは準備から。

1) 本演習で利用するファイルをコピーする。

<code>cd</code>	ホームディレクトリへ移動する
<code>mkdir latex2</code>	ディレクトリを作成する
<code>cd latex2</code>	作成したディレクトリへ移動する
<code>pwd</code>	カレントディレクトリを確認する
<code>cp /home0/fcl/m/mkano7/kano.tex .</code>	ファイルをコピーする
<code>cp /home0/fcl/m/mkano7/girls.eps .</code>	ファイルをコピーする
<code>ls</code>	ファイルの存在を確認する

それでは、コピーしたファイルを編集する。

2) "Mule" を起動する。

3) `\author{}` 欄に自分の氏名と学籍番号を書く。

4) 次頁以降を参考にして、ファイルを完成させる。

5) dvi ファイルを作成する。2回実行すること。

```
platex kano.tex
platex kano.tex
```

6) dvi ファイルを表示する。

```
xdvi kano.dvi
```

7) dvi ファイルを印刷する。

```
dvips kano.dvi
```

8) 自分の氏名と学籍番号とを確認して、提出する。

<注意事項>

コマンドは全て半角文字にすること。

コマンドの後ろに、必要な空白を入れること。

```

\documentclass[twocolumn]{jarticle}
\usepackage{graphics}
%
\title{\LaTeX の演習 (応用編)}
\author{加納学 (学籍番号: 0123456789)}
%
\begin{document}
\maketitle

```

```

\section{はじめに}

```

```

%
```

今回の演習の目標は、箇条書き、表の作成、図の取り込みができるようになることです。また、2段組にも挑戦します。この演習ができれば、 \LaTeX で簡単な論文を書けます。

```

\section{数式}

```

```

%
```

はじめの式を与えます。

```

\begin{eqnarray}

```

```

  y=ax+b

```

```

  \label{eqn:y}
\end{eqnarray}

```

式($\ref{eqn:y}$)を次式に代入します。

```

\begin{eqnarray}

```

```

  z &=& \int^{\infty}_0 y \, dx \quad \ref{eqn:y}

```

```

  &=& \int^{\infty}_0 (ax+b) \, dx

```

```

  \label{eqn:z}
\end{eqnarray}

```

このように、式番号は自動的に付けられ、その番号を参照することもできます。もちろん、文章中に $\int^{\infty}_0 y \, dx$ と複雑な数式を書くこともできます。

```

\section{箇条書き}

```

```

%
```

まずは、番号付きの箇条書きの例です。

```

\begin{enumerate}

```

```

\item これが1番目

```

```

  \begin{enumerate}

```

```

    \item これが1番目の1番目

```

```

    \item これが1番目の2番目
  \end{enumerate}

```

```

\item これが2番目

```

```

\item これが3番目
\end{enumerate}

```

続いて、番号無しの箇条書きの例です。

```
¥begin{itemize}
¥item これが1番目
  ¥begin{itemize}
    ¥item これが1番目の1番目
    ¥item これが1番目の2番目
  ¥end{itemize}
¥item これが2番目
¥item これが3番目
¥end{itemize}
%
```

```
¥section{表の作成}
```

```
%
```

ここでは、簡単な時間割を作成します。表番号が自動的に付けられます。

```
%
```

```
¥begin{table}[htb]
  ¥begin{center}
    ¥caption{時間割}
    ¥label{tab:schedule}
    ¥begin{tabular}{c|ccccc}
    ¥hline
      & 月 & 火 & 水 & 木 & 金 & 土 ¥¥ ¥hline
    1 & 英語 & & & & & 休 ¥¥
    2 & & 数学 & & & & ¥¥
    3 & & & 理科 & & & ¥¥
    4 & & & & 社会 & & ¥¥
    5 & & & & & 国語 & ¥¥ ¥hline
    ¥end{tabular}
  ¥end{center}
¥end{table}
%
```

```
¥section{図の取り込み}
```

```
%
```

ここでは、図を取り込みます。¥LaTeX で利用する画像形式は EPS です。図¥ref{fig:Renoir}は元の画像サイズの 80¥%の大きさです。図番号が自動的に付けられます。

```
%
```

```
¥begin{figure}[htb]
  ¥begin{center}
    ¥scalebox{0.8}{
    ¥includegraphics{girls.eps}
```

```
}
¥end{center}
¥caption{ルノワールの絵画}
¥label{fig:Renoir}
¥end{figure}
%
```

```
¥section{感想}
```

```
%
```

ここに感想を書いて下さい。

ここに感想を書いて下さい。

ここに感想を書いて下さい。

ここに感想を書いて下さい。

ここに感想を書いて下さい。

```
¥end{document}
```